

第1回 中央市学校再編に向けた地域検討会議(玉穂南小学校)議事録(概要)

1 日 時 令和6年7月16日(火) 19:00~20:40

2 場 所 中央市立玉穂総合会館

3 出席者

・委員(20名)

・教育員会(教育長・委員(4名)・事務局(6名))

欠席者

・委員(8名)

1. 開会

2. 市教育委員会あいさつ(教育長)

3. 会長・副会長の選任

4. 会長あいさつ

5. 議事

①市教育委員会説明

教育長から以下の点について説明を行った。

- ・中央市の学校のあり方に関する提言書(学校施設の最適化について)
- ・学校再編に向けた「地域検討会議」への取組み(今後のスケジュール)[案]
- ・学校再編の進め方について(資料1)
- ・地域協議の流れと議論の進め方(資料2)

②質疑応答

会長(進行)・資料について説明があったがいかがか。

委員 ・言葉が再編、統廃合、統合とあるが、この会議では三村小、豊富小、玉穂南小の統合を議論するのか。
 ・中央市の学校再編ということは、玉穂地区だけでなく豊富地区や田富地区も視野に入れているのか。

教育長 ・再編とは市全体を計画するときの言葉です。
 ・今回は三村小、豊富小との統合について意見をいただきたい。
 ・現在、田富小学校の長寿命化計画を進めているが、田富地区についても再編の中の統廃合を考えている。

委員 ・昨年度もPTA会長として会議に出席し、統廃合の流れについては承知していたが、今日初めて聞いた方は驚かれたと思う。保護者として意見が言える貴重な場なので、率直な意見を述べてもらえばと思う。

委員 ・学年2クラスあるので存続できると思っていたので、寂しいというか、驚いている。

委員 ・2月に統廃合の記事が新聞に出た時は驚いた。

- ・学年2クラスあり、適切な学校運営がなされており、急激な人口減もないと思っていたので驚いた。
- 委員 　・提言書に市の人口推移や生徒数の推移が載っているが、これには当てはまらないのではないか。
- ・リニアが通ることで住宅地が増え、人口が減ることはないと思う。
- ・三村小が大規模校となり、玉穂南小を建てて分かれたが、統合するとまた大規模校に戻ってしまうのではないか。
- 教育長 　・市の人口が増え、活性化され、昔のような開発ができれば嬉しいことであり、それを望んでいる。ただ、色々なことを想定して行政は取り組んでいかなければならない。10年先、20年先どんな状況になったとしても必ず守っていかなければいけないのは子どもたちの教育。今現在、全国的に人口が減ってきている、出生率も減ってきている、こういう状況の中でどんな場合にも対応できる学校施設を検討していく必要がある。まずは子どもたちにきちんとした教育を与えられる施設を作るにはどうしたらいいのか。人口が減少した場合、子どもたちが切磋琢磨して競争社会の中で生きていけるような環境づくりも必要となってくる。こういったことを考える中で学校のあり方というのは機を見ていただきたい。
- 委員 　・昨年の会議の資料に学校跡地利用として、特別支援や外国人支援のクラスを検討しているとあったが、その案はまだ生きているのか。
- ・他校では、親も本人もほとんど日本語が話せず、日本語が話せない状態で小学校に入学し、子どもたちの輪に馴染めない外国籍の子がいる。日本語や日本文化を教えるプログラムも学校再編に含まれていると聞いたので、学校の統廃合に昨年の会議では賛成した。
- 委員 　・先ほどの話は特別支援学校なのか特別支援学級としてなのか。
- ・特別支援学校というと、日本人と外国籍の子、また障害のある子を区別していると話題になっている。支援学校に進学させたほうがよいと理解している親であっても、地域で育てたいという話も聞くので、区別するというのを外国籍の方や、障害を持つ子の親が理解してくれるのか。配慮が必要ではないか。
- 会長 　・今の委員の意見はとても重要なことで、地域の子どもが、地域の学校で、地域の仲間と共に学ぶこれが公立小中学校のよいところ。新しい学校をつくるのであれば分離と区別の方向ではなく、統合と共生の方向で、これが新しい学校には求められていると思う。
- ・十分な説明と納得を得ながら統合を進めないと、総論で賛成は得られても、各論で反対は出てくると思う。
- 教育長 　・特別に支援が必要な子や、外国籍の子を区別するのはいかがかという意見だが教育長としての当初の計画の中では、空いた学校に支援センターを設けて、その中で専門的指導、教育をしていくという提案をしたが、検討委員会の中で、子どもたちは子どもたちの中で成長していくもの、区別するものではないという提言があった。

- ・教育長として考えているのは一つの学校の中に、或いは同じ敷地内の中に学童保育、不登校の子どもたち、特別な支援が必要な子どもたちに対応できるものを計画していきたい。こういうものは皆さんから意見を聞く中で一つ一つ形になっていくものなので、このような会議で話を伺っていきたい。
- ・統合についてはこの会議で決めるのではなく、最終決定は市長であり議会である。教育委員会が市長に答申するために皆さんに意見を伺っている。
- ・長寿命化とは今の設計をリノベーションするため建築費が抑えられるが、ただ、三村小では50年前に設計した校舎をリノベーションするのであれば、20年、30年後には、70年、80年前の校舎を今の子どもたちが使わなければならない。果たしてそれで適正な教育環境が保てるのか。それならばある程度の規模を保った中で新たな学校づくり、色々なことに対応できる学校をつくっていったほうがよいのではないか。玉穂南小も30年経っているので統合し、今の時代にあった学校づくりが必要ではないか。統合を視野に入れて検討していくことも1つの選択になるのではないか。

委員　・人口減少や老朽化などマイナスイメージが再編にはあるが、県が推奨する25人学級やインクルーシブ教育に対応するために新たな学校づくりをするというような、プラスイメージで時代のニーズにあった再編という説明をすることにより市民の納得が得られるのではないか。

教育長　・なぜ統合が必要なのか、これから何を目指していくのか説明をしましたが、夢と希望に満ちた学校づくりというのは前提としてあるのでご理解していただきたい。

委員　・授業参観で学校に行くが、特別支援教室の子はマンツーマンで授業をしているところしか見たことがないが、統合すれば複数の子で授業が受けられ、集団になれば子どもの中で育つのではないか。

・一つの学校の中に特別な支援が必要な子どもたちのクラスを設けることにより充実した教育を与えてくれるのではないかと感じた。

教育長職務代理者　・新しい時代の学びは、知識や技能を身に着けるだけではなく、個別の最適な学び、その子に適した学び、皆で共同し知恵を出し合い学んでいく学びが求められている。

- ・個別で学べるスペースや皆で情報共有するスペースを備えた施設が要求されている。新たな学びに合う施設が必要ではないか。
- ・特別支援だが、現在は通級指導があり、自立的な活動を通してその子の得意な部分を伸ばし、学級で交流できる力を付けるシステムもある。学校に行きにくい子が違う場所で自分の良さを見つけ、また学級に戻ってくるような、行きかえりができる施設と捉えてもらえればよい。

委員　・適正規模なのに統合する必要があるのか。

・人口減少がこの資料のとおりであれば、中央市が人口減少に対して無策ではないか。

・市街化調整区域の方向性がどうなっているのか。

- ・25 人学級が進行していくと学級数がどうなるのか。
 - ・特別支援学級の子が増えているということは、特別支援学級も増やさなければならぬのではないのか。
 - ・人口が予想以上に増えたときに、改築、改築となってしまうのではないのか。
- 教育委員 ・10年後、20年後を見据えた環境づくりが必要ではないのか。
- 教育委員 ・適正規模の統合について、統合にすることにより教育環境を整え、体制を充実させることが可能になる。
- ・ICT を活用する環境として、現在の校舎は最適ではない。
 - ・ハード面で、構造上の問題を考えて今の教育に合うものにしていく。
 - ・ソフト面で、学習支援、教育支援を集中することができるのではないのか。
- 委員 ・令和 5 年の出生者 159 人が小学校 1 年生になった場合、各学校とも1クラス 35 人以下と想定され単級となる。
- ・2050 年の人口統計でみると中学校で 250 名程度になり3クラスとなることが見えてくる。
 - ・小学校が単級になることが間違いない状況で、様々な子どもたちが学び合い、多様性を確保するために議論をする必要がある。
- 教育長 ・補足だが、今現在、小学生で私立に通う子どもは、玉穂地区で 30 名、市全体では 46 名いる。
- 委員 ・提言書が出されている以上、再編に向けて進んでいかなければならない。
- ・二つの学校だけでなく、市全体を見通して学校の再編を考えるべきではないか。
- 会長 ・自治会の中で議論があったところはあるか。
- 委員 ・昨年、自治会の組長として会議に出席していたが、高齢者と子どもたちのふれあいについての話はあったが、少子化や学校再編についての話はなかった。
- 会長 ・提言書を HP に掲載し、情報を地域住民に周知して、この会議で行っているような議論をこの会議だけでなく地域住民も踏まえて行っていただきたい。限られた会議で限られた人で決めてしまったと言われたいようお願いしたい。
- 教育長 ・皆さんからの意見を基に考えていく。
- ・統合に向けてこの会議は賛成ということで進めてよいのか、或いは判断材料としてこういう資料が欲しい、この点はどうなっているのかというような宿題があれば、次回説明し、より理解を深めていただくことも可能。
 - ・スケジュールでは年度末に保護者へのアンケートを予定しているが、まずは保護者や保育園の方々の意見を聞きたいということであれば、最初にアンケートを実施することも可能。
- 委員 ・住民や保育園の保護者へのアンケートを実施してもらいたい。
- ・統廃合する小学校に通う親の意見を反映してもらいたい。
 - ・多様性を受け入れてもらえないから、玉穂中学校ではなく私立中学校を選択する子もいる。小学生、中学生にも多様性について苦しんでいる子がいるので、そ

の思いも汲み取ってもらいたい。

委員

・他地区でもプールの老朽化や、25 人学級対応で教室が足りないなど施設の問題があるが、玉穂南小や三村小で困っていることがあれば教えてもらいたい。

委員

・単級だと中学や高校で新しい友達とのふれあいが苦手になってしまうので、できれば大勢の中で先生が目が行き届いた生活ができればよい。

・新しい施設で子どもたちがのびのびと生活できる状況を皆さんに理解いただける内容にして HP に掲載してもらいたい。

会長

・アンケートを実施し次回の議題とするということでよいか。

・資料のデータが古い。最新のデータで議論をしていかないと水掛け論になるのではないか。

・学校づくりは地域社会づくりなので、市も無策と言われないう、人口減対策や、まちづくりを考える中で学校づくりをこのように考えているというビジョンを示してもらいたい。

6. 閉会